

奈良スタディ・ツアー 原三溪ゆかりの地を訪ねました

奈良の大和文華館に所蔵されている原三溪旧蔵の美術品のうちの3点を、ちょうど開催されていた「琳派と風俗画」展で見ることができました。東大寺法華堂の不空鞞索観音は、和辻哲郎『古寺巡礼』によれば原善一郎が名作と評したそうですが、その持物の蓮華がかつて三溪園にあったとも言われます。東大寺や興福寺から直線で5kmほどの浄瑠璃寺（京都府木津川市加茂町）と、その近くの岩船寺で三重塔を見学して、旧燈明寺で今は三溪園にある本堂と三重塔が建っていた場所を確認してきました。



大和文華館では学芸員さんに原三溪と矢代幸雄について解説いただきました

東大寺法華堂にて



興福寺貫首の多川俊英師から「捨」と明治期の破損仏入札についてご講話いただきました



興福寺執事の辻明俊師が案内してくれました



NPO法人ふるさと案内「かも」のガイドさん



浄瑠璃寺の三重塔（国宝）藤原時代。建物は東向きで、中に薬師如来を祀る。



岩船寺の三重塔（重要文化財）室町時代



（参考）横浜の三溪園にある旧燈明寺三重塔（重要文化財）1457年建築



浄瑠璃寺の三重塔から池をはさんで本堂を望む。池の東側が此岸、九体阿弥陀如来を安置する本堂のある西側が彼岸を表しています。



旧燈明寺の本堂跡地の収蔵庫には観音像五躯が収められています



加茂町の旧燈明寺にて。ここが三重塔の建っていた場所。今は何もありません。